

# 考・努・感

尾張旭市立旭中学校

旭中学校ウェブサイトもご覧ください。

<http://www.owariasahi.jp/asahi-j/>

## 期末テストまで！夏の大会まで！

2年生最大の行事、野外活動が終わりました。2年生最初の定期テストである中間テストも終わりました。年度初めから慌ただしい中で過ごしてきた人も多いと思いますが、ちょっと一息をつけるのではないのでしょうか。以前にも話をしましたが、ONとOFFの切り替えを上手にしながら過ごしていきましょう。

さて、これから気温も湿度も高くなる日が多くなります。なかなか集中できなかつたり、目標を見失いがちになったりしてしまうこともあるかもしれません。しかし、2年生のこの時期をどう過ごすかはとても大切なことです。少し先の目標を定め、自分自身で取り組んでいきましょう。

(期末テストに向けて)

中間テストで思うような結果が得られなかった人もいたことでしょう。何がいけなかったのかをしっかりと反省し、期末テストに生かしましょう。学習は、集中と積み重ねしかありません。日々の授業・家庭学習を大切にしていきましょう。

(夏の大会に向けて)

部活動に加入している人は、先輩と一緒に過ごすのも残りわずかになりました。先輩たちは最後の大会・コンクール・作品展などに向けて、必死に練習・準備に励むはずですが、一年後、あなたたちも“最後の夏”を迎えます。今の先輩たちの姿を目に焼き付けつつ、自分のできることに対して全力で取り組みましょう。



### 【☆みんなのキラリ☆】

#### ～野外活動の振り返り・反省から～

「普段あまり話したことがない人と話すことができた。」

みんなの『野外活動振り返り・反省用紙』の最後の自由記述欄に、上と同じような言葉を書いている人がたくさんいました。

「仲のいい子たちとだけでなく、みんなで楽しもう！」

出発前にみんなに伝えたことです。2泊3日一緒に過ごす中で、新しい友達ができた人もいれば、クラスメイトの新たな一面を発見した人もいたようです。「みんなで楽しもう！」という姿勢で過ごしたからこそだと思います。



### (来週の予定)

30日(月) 総合「自学の時間」

☆ 30日(月)からD組・F組・G組に教育実習生が来ます。ぜひ自分から話しかけてみましょう。

☆ 今年度、旭中学校では月6の総合を「自学の時間」とします。「自学の時間」とは、

○自ら課題を見つけ、自ら学習し、問題を解決する力を付ける。

○自分で学習する力と習慣を身に付ける。

ということをねらいとして行うものです。詳しくは担任の先生から説明がありますが、しっかりと計画的に取り組み、有意義な時間にししましょう。



赤石沢真子 高校生

(名古屋市西区) 16歳

「第三者の評価を意識した生き方はしたくない。自分が納得した生き方をしたい」

イチロー選手のこの言葉は、私に大切なことを思い

### 納得できる生き方歩む

出させてくれました。

私には保育士になりたいという夢があります。しかし、周囲からは「保育士は子どもの命を預かる大変な仕事だから、他の職業にしろなさい」と言われました。今までの私は、周囲の意

見に流され、自分の意思を表してきませんでした。自分

の意思を表すことができないから、自分に自信が持てないという日々を過ごしてきました。

そんなとき、イチロー選手の手言葉を聞き、私は自分

を見つめ直すことができました。私は今、自分の意思

をしっかりと持っています。保育士という将来の夢もあきらめていません。これからも自分が納得できる生き方ができるよう、一歩ずつ歩んでいきたいです。

4月25日(中日新聞)



「納得できる生き方を歩んでいるだろうか？」

「幸せと思えるよう努力しているだろうか？」

二人の文章を読んで、私自身改めて考えてみました。忙しい毎日だと、つい今を生きること一杯になってしまい、「自分はこうありたい！」とか「自分はこんなことをしてみたい！」といった思いを忘れがちになってしまいます。しかし本当の意味で『よりよい人生』を歩むためには、自分自身で意思をもち続けたり、努力したりすることが大切なのではないのでしょうか。

大きな行事・テストが終わった今、登下校の時やお風呂に入っている時などほんの少しの時間でもいいので、一度『自分自身の生き方』について考えてみるのもいいですよ。

### 幸せと思えるよう努力

林 倫太郎 中学生

(愛知県江南市) 14歳

僕の父は、祖父の立ち上げた会社の後を継ぎ、電線加工の仕事をしている。幼いころから、仕事をする父を見てきた僕は、当然後を継ぐものだ、思い込んでいた。

父が何の前触れもなく、僕にぼつりと話しかけてきたのは、小学校の卒業式が終わった後だった。後を継ぐことが自分の中で明確になっていった僕に、父はこう言った。

「父さんは昔、将来なりたいものがたくさんあった。消防士にも、弁護士に

も憧れた。でも、結局その

夢はかなわなかった」と打ち明け、「おまえはそれを残念だと思うか。父さんはそれは思わない。実家を継いで、母さんと出会って、おまえが生まれた。父さんは幸せだ」。そして「仕事は何でもいい。将来、おまえが幸せだと思えるように努力しろ」と僕を励ました。

その言葉は、殴られたように僕の頭の中に響いた。

いつかこんな言葉を、息子にかけられる人間になりたい、と思った。自分が好きだと、幸せだと思えることを、仕事につなげたい。父

のようにするために。

5月20日(中日新聞)